

# 平成 28 年度 学校評価報告

平成 28 年度（自平成 28 年 4 月 1 日至平成 29 年 3 月 31 日）学校評価アンケートを配布し、有効回答のあった下記の数についてその結果を別紙とともに学校評価を報告する。

## 【アンケート対象者】

対象者	回答数
生徒	206
保護者	200
教職員	34

### （1）教育課程・学習指導等

シラバスの改善などを毎年行い教育内容の充実を図っている。そのことが確実に進級率に反映されており 90%は達成できたが、この数字に満足することなく今後は更なる充実を目指し、進級率 100%を常に目指していきたい。

普通科目について、学力差がある生徒たちへの授業方法について更なる教員の研鑽が必要であり、一斉授業の方法からアクティブラーニングへの転換を行うことで、生徒の理解や授業への積極的な参加を促していく必要を感じている。

### （2）教育相談・メンタル面へのサポート体制等

コース別担任制度と、それをサポートする養護教諭や教育カウンセラーの協力態勢が有効的に機能しているが、開校以来学校として蓄積してきたノウハウや教職員のスキルの向上により、生徒の学校での生活態度が安定している。また、スクーリングにおいても多くの生徒が、途中で投げ出すことなくスクーリング修了証を手に入れている。

当校としても、この状況に安住することなく、カウンセラーなど専門家に任せきりにするのではなく、教職員もカウンセリングスキル習得を目指し、積極的な職員の研修などにも取り組んでいきたい。

### （3）キャリア教育・進路指導

生徒ひとりひとりとの個別面談を繰り返し、難関と言われる大学や専門学校への進学、技術の習得や資格取得、美容室やネイルサロン、ファッション販売等の就職決定者数も年々上昇しており、専門分野への道を選択している生徒の進路決定が増加している。このことについては、日ごろのサテライトでの毎日の指導などの活動と、新たな就職先を開拓する職員の努力が大きく寄与している。

近年希望者が増加している大学への進学という点では、平成 28 年度には日本大学藝術学部との連携を通じて、今後学校推薦枠をいただけるよう関係を強めていきたい。

しかしながらその反面では、家庭内の経済的事情により、進学したくても出来ない生徒もおり、奨学金の利用などを含めて、様々な情報を提供し、一人でも多くの生徒が希望する進路につけるように指導を強化していきたい。また折角進学や就職をしても早期

に退学や離職をしてしまうケースが見受けられるので、それらを解消するための方策を在学中から意識づけるために、進学か就職かという進路指導の枠ではなく、生徒自身の人生を見据えたときにどう学校として関わっていけるかというキャリア教育の中のひとつとしての進路指導が出来れば、生徒はより主体的に進路を決定できる力を身に付けることができ、早期退学や離職への対策になり得る。

#### (4) まとめ

開校以来11年が経過し、より教育内容の充実を図っていかなければならない。昨今の通信制高校における様々な問題から、教育の質の保証と向上が叫ばれている。そんな中で“芸術を学べる通信制高校”という一貫した特長が中学校にも浸透し、不登校を経験した生徒や学力不振に悩む生徒だけでなく、自ら、希望する進路を見据えて入学をしてくる生徒も増えてきている。キャリア教育・進路指導を一層充実させ、生徒、保護者、中学校等関係する方々に支持される学校としてこれからも質の高い教育を行っていく所存である。

学校法人恭敬学園  
北海道芸術高等学校  
学校評価委員会

平成28年度 学校評価

学校法人恭敬学園 北海道芸術高等学校

平成28年度 学校評価 北海道芸術高等学校

教育理念	表情もまた学力である
教育目標	芸術を通し、高い倫理観・道徳律を養い、コミュニケーション能力、感性に富んだバランス良い生徒の育成
教育方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個性と感性の尊重:個性溢れる創造力の育成</li> <li>2 選択と自由の尊重:何を学ぶかを、自己の責任において自由に選択できる環境の提供と、判断力の育成</li> <li>3 挑戦と失敗の尊重:積極的に挑戦する自主性と失敗から学ぶ態度の育成</li> </ol>
中長期重点目標 (学習指導)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習における、学ぶ姿勢の定着を図る</li> <li>2 学習における、基礎学力の定着を図る</li> <li>3 目標達成のために必要な学力を把握し、振り返りや応用学習に努める</li> <li>4 新しい授業方法への取り組み(アクティブラーニングなど)を積極的に取り入れる</li> </ol>
中長期重点目標 (生徒指導)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自由と責任を考え、自主・自立を促す</li> <li>2 それぞれの将来を見据た、基本的な生活習慣の確立</li> <li>3 学習をとおして、自己表現、他者との関わりや信頼関係、コミュニケーション能力を育くむ</li> </ol>
中長期重点目標 (進路指導)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自らの興味関心・能力・適性を把握し、納得のできる進路選択ができるように支援する</li> <li>2 早期の段階からキャリア教育を展開することで、自らの進路に対して視野を広げる</li> <li>3 芸術進路研修やインターンシップなどをとおして各業界に繋がるチャンスを与える</li> </ol>

(評価／ A:よく出来ている B:まあまあ出来ている C:あまり出来ていない D:出来ていない)

事項	評価項目	評価	課題や改善策等
1 教育課程・ 学習指導	1 指導目標、指導計画、授業時間数などの教育課程の適切な編成・実施状況	A	
	2 生徒による授業評価の結果	B	アクティブラーニングへのシフトを検討
	3 教材・教具・図書等の整備と活用状況	A	
	4 外部人材の活用状況	A	各分野の協力者の拡充を図っていく
	5 地域の自然や文化財等の教育資源の活用状況	B	限られた時間内において十分ではない
2 生徒指導	1 生徒指導体制の整備状況	A	
	2 教育相談体制の整備状況	B	十分な時間をかけることが難しい
	3 家庭・社会・関係機関等との連携状況	A	定期的な連絡を心がける
	4 問題行動等の状況及びそれへの対応状況	A	
3 進路指導	1 進路指導体制の整備状況	A	職員全員のスキル向上を図る
	2 職場体験の実施状況	B	更なる受け入れ先の開拓が必要
	3 進路指導の実施状況(職業観、適性、情報収集等)	A	自宅学習者へのフォローが課題
	4 家庭、上級学校、企業等関係機関との連携状況	A	
4 安全管理	1 学校安全管理計画等の作成・実施状況(安全管理体制の整備状況を含む。)	B	実態に即した計画の作成と実施
	2 危機管理マニュアル等の作成・活用状況	B	随時の見直しが必要
	3 教職員及び生徒の安全対応能力の向上を図るための取組状況	A	
	4 安全点検の実施状況	A	
	5 学校防災計画の作成・実施状況(災害発生時の応急対応体制の整備状況、避難(防災)訓練の実施状況)	A	
	6 家庭・社会・関係機関等との連携状況	A	一斉メールなどを活用する

事項	評価項目	評価	課題や改善策等
5 保健管理	1 学校保健計画等の作成・実施状況(学校環境衛生の管理状況を含む。)	B	実態に即した計画の作成と実施
	2 職員の健康診断の実施状況	A	毎年実施している
	3 心のケアの体制整備状況や健康相談活動、薬物乱用防止教室の実施状況	A	定期的な専門家からの指導
	4 生徒の自己健康管理能力向上のための取組状況	B	生徒の健康に関する意識向上を図る
	5 家庭や保健関係機関(保健所、医療機関等)との連携状況	A	
6 特別支援教育	1 校内支援体制の整備状況	B	カウンセラーの配置と職員のスキル向上
	2 医療、福祉等の関係機関との連携状況	A	
7 組織運営	1 学校の明確な運営・責任体制の整備状況	B	明確な責任体制の整理を行った
	2 教職員の勤務時間等の把握	A	より効率的に業務を行う意識を高める
	3 学校事故への対応状況	A	報・連・相の徹底
	4 情報管理の状況(公文書の作成・収集・保管、個人情報の保護等)	B	個人情報取り扱いの更なる徹底
8 保護者・地域 住民等との連携	1 保護者との連絡の充実状況	A	
	2 地域との連絡の充実状況	A	
	3 教育相談体制の整備状況	A	職員の相談スキルの向上を図る
	4 保護者や地域を対象とする意見収集	A	定期的実施する
9 施設・設備	1 施設・設備の効果的な活用及び点検等の状況	A	点検をより細目に行うこと
	2 学習・生活環境の充実のための取組状況	A	
10 学校経営	1 学校法人の経営状況	A	